

※報告番号 応 甲 第 号
不 乙

学位論文等審査結果報告書

研究科

学位論文審査委員会

主査 表明 榮 印 副査 中城 康彦 印 副査 周藤 利一 印
副査 山本 卓 印

学 籍 番 号

氏 名

金 東 賢

学位論文題目

A Study on the Mainstream of Real Estate Education with Core Term Analysis
- Focusing on Undergraduate Education -

学位論文審査結果

合

・ 否

最終試験結果

合

・ 否

学位論文審査及び最終試験結果の要旨（1,500 字程度）

本論文は、英国及び米国における不動産教育の特徴を分析し、今後の日本の不動産教育に必要とする教育カリキュラムに関する基本的な情報を提供することを目的としているものである。

論文内容は、前回の事前審査会や公聴会での意見や質問を受けた部分について内容の深化・拡張を行った上で作成されたもので、6 章で構成されている。

第 1 章が Introduction で研究の背景、既往研究、研究の目的と研究の独自性などを述べ、研究第 2 章と 3 章が「History and Characteristics of Real Estate Education in the UK and US」で、イギリスとアメリカの不動産教育の歴史と特徴について整理・分析し、その結果からイギリスとアメリカの不動産教育の特徴について仮説を立てた。第 4 章は「Finding out Mainstream and Picking up the BOK of Real Estate Education by Core Term Analysis」で、RICS 認定のイギリス 14 Real Estate 学科の必修科目と AACSB-International 認定のアメリカ 22 Real Estate 学科の必修科目から Core Term を抽出した。そして、その Core Term から現在進行中のグローバル不動産教育の Mainstream や BOK を分析すると共に、第 2 章、3 章で立てたイギリスとアメリカの不動産教育の特徴に対する仮説を現カリキュラムの科目から抽出した主な Terms によって検証を行った。同時に、Subject distribution と Linked 2nd terms の観点からもイギリスとアメリカの不動産教育の特徴に関する分析を行っている。第 5 章は「Identifying Japan's specificities by Proximity Analysis」で、イギリス、アメリカ、日本の Real Estate 学科の必須科目から抽出された Terms 間の Proximity Analysis 分析を行い、イギリスやアメリカと比較した日本の不動産教育の特徴を明らかにした。第 6 章は「Conclusion and Future Works」で、研究成果のまとめと今後の研究課題について説明した。

このような研究内容から、特に本学位論文の新規性のある部分としては、イギリスの RICS 及びアメリカの AACSB-International によって認定された不動産学部教育カリキュラムの分析を同時に行い、両国の不動産教育における特徴の確認とコア用語を用いて現代のグローバル時代における不動産教育の Mainstream を把握したことである。その分析過程で既存の研究手法とは違った、より効率的な方法として Term-based analysis を行ったことも新規性がある。このようなことから、本論文は不動産学教育に関する基本的な情報の提供や不動産学教育分析の方法論に関する論文として質の高いものであると判断できる。

最終審査は 1 月 28 日（火）に主査と副査 3 名が出席して行われ、各種質問に対して適切に対応した。

以上の結果、金東賢は博士（不動産学）の学位を得る資格があると認める。